

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和3年度第2回西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
開催日時	令和3年8月30日(月) 午後3時～5時15分
開催場所	市役所 中会議室
出席委員の氏名又は人数（敬称略）	瀧川光治（リモート）、鈴木正敏、松尾寛子 閑念勝代、春増勝利
欠席委員の氏名又は人数（敬称略）	—
出席職員の職・氏名又は人数	教育長 笹倉邦好 教育部長 森脇達也 学校教育課教育研究室主幹兼室長 衣川正昭 幼保連携課長 正木万貴子 幼保連携課主査 山下秀華 幼保連携課（幼児教育センター）藤原幸恵 幼保連携課（幼児教育センター）前田玲佳 幼保連携課（幼児教育センター）鍵田梓
公開・非公開の別	非公開
非公開の理由	個人情報に配慮するため
協議又は協議事項	(1) 第1回視察訪問について (2) 今年度事業の評価報告について (3) その他
会議の記録（概要）	
発言者	内 容
事務局	1 開会 委員の出席は5名（内1名はリモート） 委嘱状の交付
教育長	2 あいさつ
事務局	(資料確認) 3 委員長・副委員長の選任 委員の互選により選出 委員長は瀧川光治委員、副委員長は鈴木正敏委員に決定

	<p>それでは協議事項に入ります。ここからの進行は委員長にお願いします。</p>
委員長	<p>4 協議事項 (1) 第1回視察訪問について 事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 令和3年度西脇市就学前教育推進事業自己評価資料 (各園) 各園の訪問時の写真をパワーポイントで共有
各委員	<p>～各園の感想・意見 保育内容～</p> <p>基本的にゆったりと落ち着いた一定の保育の質を感じることができた。保育室ではテーブルの上や床の上でままごとコーナーがあり、子どものことを考えながら保育を進められている良い印象を受けた。</p> <p>発達段階の理解と実際の子どもの姿と両方から考える保育の見通しや保育内容について、面談時間が短かったのもう少しゆっくりと話をしたかった。</p> <p>保育環境で、机が置きっぱなしにしてあるとどうしても保育室の空間として遊び場所が限られてしまうので、惜しいと感じた。しかし、昨年にスペースを片付けて遊べるように改善されていて、主体的な遊びができる保育を検討されている姿が見られた。</p> <p>「保育環境を考えておもちゃを作りたいが、時間がない」と相談されたが、一から新しく作るというよりも目の前で遊んでいるおもちゃにプラスαするような、少しでもできる場所はないか考えるという視点で話をした。</p> <p>4・5歳児は、制作コーナーの保育環境を頑張ると保育が面白くなるので、素材や種類をもう少し増やしていくと豊かになっていくと感じた。面談では、当日の保育写真を見ながら幼児理解や5歳児のクラス作りと子どもにどのように意欲ややる気を持たせるか等を助言した。</p>

遊びの前の話し合いや振り返りを4・5歳児ともにしっかりとしていた。特に5歳児は、振り返りで子どもと一緒に考え、今後の見通しを持たせられるよう担任が上手にドキュメンテーションを活用していた。

廃材や粘土等を使った豊かな活動で子ども達が非常に落ち着いていた。逆に言うと気になる子があまり目立たない。きっとこのような造形活動では、この子達は生き生きし集中できるのだと私自身が学び、気付かされた。

先生方が生き生きと保育する様子が見られた。保育者の気持ちのゆとりが、保育の中での子どもに対する温かい言葉がけにつながっているように思えた。担任同士で連携を図ってはいるが、保育環境の違いが見られた学年もあった。日々の保育の経験の積み重ねが子どもの学びの違いにつながらないよう提案した。

ドキュメンテーションに力を入れていて、子ども達の頑張る姿を伝えたいという前向きな部分が見てとれた。読み取る力が、先生方の保育に対する力にもなっていると感じた。また、多くの手作りおもちゃがあることで温かさも感じた。ドキュメンテーションを5歳児が作成するという一歩進んだ保育の取組と小学校の学習に目を向けた内容も提案した。

遊びの中から子ども達が学べる工夫ある保育が随所に見られた。保育者が、面談を進めるうちに考えや視野が広がり、今後の保育のより良い方向性に気付いていた。

～自己評価の資料から～

今年度自己評価の記入で、実施状況に○と☆と★の3つの印をつけた。保育者との面談や保育の様子から★ばかりではいけないが、○☆★を記入されている保育者は、自分の中で何ができて何ができていないということを意識されているように感じた。自分の課題をどうにかしたい気持ちと、自分の保育について立ち止まり、客観視しようとするという姿勢が見られた。人間の心理として★をつけにくいかもしれないが、自分の中の悩みや困っている部分を視察訪問でどうやって解消したらいいかを一緒に考えることができた。

事務局	<p>～全体を通して～</p> <p>おもちゃも含む遊びの保育環境を常設している園と、普段は片付けていて必要な時に出す園では、保育者によっては1日の生活の中でオペレーションに違いがあるように感じた。</p> <p>「コロナ禍で自己評価をする意味があるのかという疑問と、やることに意味があるという思いもある」と話をされた。改めて、保育を肯定的に見ること・伝えることを大切にしたいと感じた。</p> <p>どの園も先生方の子どもを思う温かい心と情熱をすごく感じた。手作りのダンボールの囲いや色々な遊び道具等、愛情のあふれるものを限られた時間の中で作成されているのが見てとれた。</p> <p>入学した1年生に、これまで学校が一番意識して考えていたのは学習規律だった。この訪問を通して、園で取り組んできたことを生かし、園と小学校が接続・連携をしながら子ども達を迎えてスタートカリキュラムを進めることが私達の使命だと実感した。</p> <p>～特別支援について～</p> <p>園内でどのくらい相談や共有ができていようかという点が気になった。努力はされているが、細やかな伝達や情報共有の時間をもつことがなかなか難しいように見受けられた。ケース検討のような事例を挙げて園内で共有できる機会が増えるといいのではと感じた。</p> <p>コロナ禍で行事が中止・縮小される中、家庭と園での状況が違う子どもについての相談が多かった。園から外部機関につながが、発達検査は個別対応なので数値が高く、行動面も問題がない結果となることが多い。保護者だけでなく、園での集団生活での困難さの様子を外部機関に提供できる連携ができればと思った。</p> <p>サポートファイルについて、5歳児は特に相談や具体的な記入例等の希望が増えてきた。支援を必要とする子がしっかり情報をもって小学校へ向かうことは好ましい。</p> <p>(学校教育課から)</p> <p>家庭的な支援や配慮の必要な児童は、園の時から支援しているので小中学校だけではなく、福祉と生徒指導の面をトータルで考えて</p>

<p>各委員</p>	<p>いかなければならないと感じた。</p> <p>今小中学校で9年間の学びの系統カリキュラムを作成しているが小学校との接続研修でもあったように、スタートカリキュラムをドッキングしていくということも推進しなければならぬと思った。</p> <p>その他の意見交換</p> <p>～視察訪問の時間変更について～</p> <p>15時までになったことで参観、面談がゆったりと余裕がもてた。</p> <p>園の先生方に参観中に助言することも、午後からじっくり面談することもでき良かった。昨年までのようなバタバタとしたのがなくきちんと話をすることができた。</p> <p>～コロナ禍での訪問対応について～</p> <p>2回目の訪問時期に感染者数が増加した場合どうするかが気になるが、コロナ禍で行う訪問で感染対策も含めて見ることは良かったのではないかと。</p> <p>園での感染対策を他園や学校でも情報共有できるような機会があればいいと思う。</p> <p>～小学校との接続について～</p> <p>小学校との接続研修で特に小学校の先生としっかり話げできた。小・中学校9年間の学びの系統カリキュラムと今後つなげることを期待したい。非常に重要なところを幼児期が担っているの、園の先生方に改めて自覚していただけるように思う。</p> <p>これまで園と小学校の交流は、引継ぎの意味が強く気になる子の情報交換が主流だった。園での保育の取組を1年生で生かせるような意見交流する場があれば、もっと良い小学校生活のスタートがきれると第1回の訪問で感じたので、市内の小学校の校長先生と共有できるように進めていきたい。</p> <p>～ミドル層の保育者の育成について～</p> <p>主任保育者が積極的に質問したり、アドバイスを求めたりする姿が見られた。</p> <p>ミドル層が集まる研修やお互いの園の情報交換を行うことで刺激になったり、小学校教諭とミドル層の保育者がカリキュラムについて意見交流できたりするような場があればもっと良いと思う。</p>
------------	--

委員長	(2) 今年度事業の評価報告について事務局から説明をお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2 ①令和元年度自己評価、保育内容質問比較（各園） ②令和元年度就学前教育・保育の質の向上推進委員会報告書 ・資料3 令和元年度自己評価報告書作成の流れ
委員長	今年度事業の報告について、初年度の元年度と比べてどのように園が伸びてきたかという視点で評価してほしいという意見があります。比較を考えると記述的なものでは、自己評価や保育者の質問内容等から保育の質を比べることができます。このような趣旨を踏まえて意見をお願いします。
委員	伸びているところが分かるというのは本当に良いと思います。資料を見ると比較ができるので、委員の記入はできると思います。今年度の自己評価は、改善したい部分も入ってくると思うので、最初は伸びた部分、それから改善点という順番でいいと思います。
委員	先生方は、日々保育を頑張っているので、「自分達の保育は間違えてなかった」と思えるような言葉を伝えたいと思います。
委員長	次に、保幼小の連携の部分ですが、初年度と委員が変わっていますので、伸びている部分の読み取りが難しいのではないですか。
委員	正直コロナ禍では、保幼小の連携の部分の園の評価が低いかもしれません。その中で園が工夫しているところを記入できればいいと思います。
委員長	保幼小の連携については、コロナ禍であることも考慮し、今年度の取組でよく頑張っている部分を中心に記入することにします。
事務局	特別支援教育について、全体として捉えるか園ごとで記入するのか、またコロナ禍を踏まえ、保幼小の連携や家庭・地域との連携の項目についても意見をいただきたい。

委員	<p>(特別支援教育について) 訪問時には、各園の要望に沿って個々の困難事例の相談を中心に行っている。各園の取組については、全てを確認し把握することは困難な状況であった。そのため、園ごとに相談のあった事例対応の報告とするより、全体として報告する方が、妥当であるかと思います。</p>
委員	<p>(保幼小の連携について) 学校によって連携の仕方が色々あると思うので、園ごとに記入した方がより特徴が出ると思います。</p>
委員	<p>(家庭・地域との連携について) 視察訪問では、保育内容と特別支援が中心となるので、各園の記述に頼るしかない面はあります。コロナ禍なので、園はできていない部分も含め正直に記入していただく。ただ、色々な都合で子どもを休ませている保護者もいる状態ということも踏まえて、例えば、保育の様子を携帯でつなげて、休んでいる子にメッセージや保育室にいるような気持ちになる動画を送ってみる等、行事も難しい中でどんな風に伝えていくかというのが一番大事だと思うので、少しでも園で工夫されている部分を出せればとよいと思います。</p>
委員長	<p>家庭・地域との連携は、その園に応じて記入することができると思います。</p> <p>私からの提案ですが、昨年度の視察訪問アドバイス集(各年齢まとめ)のような家庭・地域との連携という部分でグッドモデル事例集を作成し、各園に還元するのはどうかと思います。リモートやドキュメンテーションに絞られることになるとは思いますが、それをあえて事例集として全園に知らせることで、積極的な園は自信となり、まだな園にとっては刺激にもなるのではと思います。</p>
事務局	<p>昨年度、コロナ禍で頑張ったことで一番出てきたのが、家庭との連絡・連携だったので、そこを焦点化すると事例集につなげることができるのではと思います。</p>
委員長	<p>改めて、それぞれの園が自己評価している【○、☆、★】の部分は、相談・助言しながら園に返していく。その一方で、保育の質を高める仕組みとして、他園の情報を知る・共有するという部分は、家庭との連携の事例集を作ることで各園に還元できる。基本的には</p>

	<p>この事業は上手くサイクルを回し、継続していくということが必要なので、評価され意欲が高まる部分と、評価のためだけで終わるともったいないという気持ちになれる手立てだと思えます。</p> <p>では以上で、報告書様式の検討は終わります。</p> <p>(3) その他 事務局から説明をお願いします。</p> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料4 保護者アンケート参考（三木市・多可町・しばざくら幼稚園） ・令和4年度以降の取り組み方、今後の方向性について <p>委員長</p> <p>保護者へのアンケートについては、まず実施するかしないかという点と内容項目の検討です。</p> <p>私の意見としては、実施です。初年度は自己評価を行う意義を理解していただくのが難しかった現状があり、段々と自分達の保育を高める仕組みとして認識されてきたと思えます。アンケートの内容は、「コロナ禍でお子さんが行き渋りはないですか」「保護者として不安はありませんか」という面や「園のコロナ対策は十分されていると思えますか」というような項目を追加すると思います。</p> <p>委員</p> <p>コロナ禍のことは入れていいと思えます。他の項目は詳しくせず簡略化する。ただし自由記述はあった方がいいです。</p> <p>委員</p> <p>自由記述欄が大事だと思います。ただ保護者の中には、アンケートに回答したら改善があると思われるかもしれません。</p> <p>委員</p> <p>保護者のニーズとそれを集めた結果をどうするのか、内容次第とも思えます。</p> <p>委員</p> <p>回収方法をどうするか検討も必要です。三木市は、インターネットと紙媒体と両方です。兵庫県電子申請共同運営システム（e—ひょうご）を使うので、保護者は安心して答えることができます。紙媒体も返信用封筒で直接事務局に来るようになっていてどちらも園を通さない。その分回収率は低くなるかもしれませんが、安心して答える個人情報の保護や匿名性の確保というところを大事にされ</p>
--	---

	<p>ているようです。</p>
委員長	<p>最終的には各園にフィードバックをすることを考えて回収するのか、就学前施設の子どもの達全体の状況を知ることが目的として回収するのか、事務局としてはいかがですか。</p>
事務局	<p>参考資料の多可町のような保護者の満足度調査の内容を考えています。各園でアンケートを実施して保護者へフィードバックを行い市は全体を集約したいと思っています。一方で、既に保護者評価をしている園があり、他園が参考に情報共有を求めるといった動きも出ています。</p>
委員長	<p>多可町の共通アンケートのように園名を入れた形でアンケートを実施し、質問内容は、コロナ関連を追加して10項目までとします。時間の都合上、内容の検討はできませんが、事務局はいつ頃までと考えていますか。</p>
事務局	<p>今年度の年明けに実施し、年度内に保護者へ結果を公表したいと考えています。事前に各園からは、コロナ禍で行事の少ない状況でアンケートに答えることができるのかという意見や、回答に不満を選んだ保護者の自由記述に追加して、満足を選んだ保護者の自由記述も加えることで、肯定的な意見から職員のモチベーションが高まるという意見がありました。</p>
委員長	<p>質問内容は、事務局で検討した案に対し各委員から意見を出して確定していくことにします。最後に令和4年度以降の取り組み方と今後の方向性についてです。</p>
事務局	<p>今年度の視察訪問で、各委員が全園を一巡して1クール終了すると各園は認識しています。自己評価の様式や今後の視察訪問の巡回順等についても意見を持っています。次年度以降、2巡目になる前に現場のニーズを聞き、今後のサイクルに生かしたいと考えます。委員との意見交換の場を設けるのはどうでしょうか。</p>
委員長	<p>確かに私達が次のサイクルを全て段取りして依頼するより、園の意向や現場の受け止め方等を反映させた方がよりスムーズに進むと</p>

	<p>思います。</p>
委員	<p>日程調整ができるかという心配がありますが、園の先生方の意見からより良い方向にしていくということは、とてもいいことだと思います。</p>
委員	<p>園長先生の受け止めと現場の受け止めの違いがどのように違うかというのは気になっているので、様々な意見が吸い上げられたらいいと思います。</p>
委員	<p>こちら側の思いも直接の方が伝わる場所もあると思うので可能であれば話をできればと思います。</p>
委員長	<p>年内で日程調整をお願いします。 それでは、以上で本日予定していました協議事項を終了します。 委員には円滑な運営に協力いただきありがとうございました。</p>
事務局	<p>5 次回開催予定 次回の会議の予定ですが、来年1月24日（月）午後3時から予定しています。第2回視察訪問の報告と今年度の評価について、また次年度事業の方法について協議をいただきたいと考えています。 閉会の前に教育部長よりご挨拶申し上げます。</p>
部長	<p>あいさつ</p>
事務局	<p>6 閉会 以上をもって、本日の会議を終了します。</p>